

# 教育研究業績書

2023年10月23日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：宇治丸 圭子

研究分野	研究内容のキーワード
母性看護学	子育て支援、地域母子保健
学位	最終学歴
修士	兵庫医療大学 看護学部看護学研究科 家族支援看護学分野

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. チーム医療論	2022年4月～現在	講義を1回担当し、チーム医療における助産師の役割について講義した。対象が3年生であることを考慮し、また後期より実習が始まることも踏まえて、視野を広くもって自身がチームの一員となるという自覚が促せるよう考えた。
2. 母性看護学実習	2021年4月～現在	学内実習で看護技術の指導を行い、また臨床では看護過程の展開・褥婦や新生児のケアについての支援や臨床指導者等との連携と調整を行っている。
3. 母性看護学Ⅱ	2021年4月～現在	地域母子保健および産褥期・新生児期のアセスメントとケアについて講義を行った。また、グループワークおよび演習の準備・運営、課題の添削等を行った。実習が近づいているということで、より実践的にイメージできるよう内容を工夫した。
4. 母性看護学Ⅰ	2021年4月	準備の段階で教授の指導を受けながら妊娠期の異常と看護について講義した。学生の学習進捗状況や理解度に合わせ、内容を絞る、写真や図表を多く取り入れてイメージがつきやすくする、臨床の場面を説明するなどの工夫を行った。
5. 兵庫医療大学 助産学領域 助教	2015年4月1日から2015年12月31日	学生が書きやすい形式に実習記録の項目を検討し、改定
6. 千里金蘭大学 母性看護学領域学内演習	2014年4月1日から2014年10月31日	助産学生の臨床実習に帯同し、記録の指導 妊婦・産褥子宮モデル、乳房モデルを使用しながら実践的な観察方法の指導
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. つかぐち訪問看護センターでの実習生の指導経験	2017年4月1日から2021年3月31日	利用者のところへ同行訪問、学生カンファレンス参加
2. 大谷助産院での実習指導	2012年4月1日から2013年3月31日	助産学生による外来・保健指導・退院指導の検討
<b>4 その他</b>		
1. 国家試験対策委員	2022年4月～現在	学生の国家試験対策のためにスケジュール調整や課題の提示、模擬試験の振り返りセミナー等の企画・運営に携わる。
2. 武庫川女子大学看護学ジャーナル編集委員	2021年4月～2022年3月	ジャーナル編集委員として、担当論文の校正・論文執筆者や査読担当者との連絡・調整を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 看護師・助産師・保健師	2007年5月14日	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		
1. 大阪府看護協会 地域包括ケア委員	2019年4月1日～現在	大阪市南支部担当として、地域における看護職同士の連携のための課題検討および研修会の企画に携わっている。
2. 大阪府助産師会 電話相談事業担当	2018年10月1日～現在	ボランティア事業である電話相談のシフト作成、相談受理票の形式の検討、相談内容の集計・報告、相談員間

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
3. 大阪府助産師会 定例研修担当委員	2017年4月1日～現在	で共有すべき事例の配信、相談員新規登録者へのオリエンテーションを行っている。 1年を通じて行われる大阪府助産師会定例研修会の講師との連絡・調整やチラシの作成等、企画運営を行っている。
4. 大阪府助産師会 不妊不育電話相談事業担当	2012年4月1日～現在	運営会議に出席して他の事業との連携をとったり、シフトの作成や相談員間の調整などを行っている。また、相談活動に必要な大阪府・大阪市との連絡会議・研修会の企画・運営を行っている。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 初産婦の妊娠末期と産後1ヵ月における出産観と子育て観の関連	単	2015年3月31日	兵庫医療大学大学院看護学研究科修士課程学位論文	肯定的な出産観をもつ女性は子育てについても積極的に取り組む傾向にあり、その傾向は助産院で分娩する女性の方が強かった。肯定的な出産観をもつことは虐待予防につながる事が示唆された。
2. 妊婦のマタニティーブルーズと産後うつ病に関する知識の実態調査	単	2007年3月31日	大阪大学医学部保健学科卒業論文	妊婦は産後うつ病に関する認知が低く、自然治癒の有無や発症時期についてマタニティーブルーズと混同していることが明らかとなった。保健指導などで認知度を高めることは予防や早期受診につながる事が示唆された。
3 学術論文				
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 一般社団法人大阪府助産師会の取り組み～子育て・女性の健康支援センターの地域活動～	共	2014年12月14日	第53回大阪母性衛生学会学術集会（大阪市）	大阪府助産師会子育て女性の健康支援センターの活動の報告
2. 不妊専門相談センター活動の実際～電話相談の内容と対応の現状と課題～	共	2014年9月1日	第11回日本生殖看護学会学術集会（京都市）	大阪府不妊不育電話相談内容と対応の現状と課題に関する報告
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1. 2021年9月～現在	日本災害看護学会
2. 2021年8月～現在	日本精神保健看護学会
3. 2021年8月～2021年12月	西宮市保健所業務支援
4. 2012年4月～現在	日本助産師会